

スギ・ヒノキ花粉飛散について

新田原耳鼻咽喉科クリニック

松下 太

【はじめに】

今年は、コロナ禍のため、耳鼻咽喉科診療にも大きな影響が出ています。昨年はスギ・ヒノキ花粉の飛散が落ち着いたところから、コロナ感染の拡大が始まったため、花粉症の方にはあまり大きな影響が出ませんでした。今年、感染拡大の中での花粉飛散となります。花粉症によるくしゃみや鼻汁であっても、周りの方への影響を考えると、できる限り症状を抑える必要があります。花粉情報を参考にし、早めの治療を心掛けるようにしましょう。

今回も、昨年度の飛散報告と今年の1月時点での飛散予測を発表させていただきます。

なお、データは当院で測定を開始した2005年以降について検討しています。

【昨年(2020年)春のスギ・ヒノキ花粉飛散状況】

行橋市の花粉飛散状況(表1)を見ると、スギ花粉は2237個と過去最高だった2019年の8296個の3分の1以下の飛散にとどまり、過去2番目に少ない飛散となりました。昨年の会報では飛散が少ないと予想していましたが、予想が当たったこととなります。要因としては、大量飛散の翌年であることや前年7月の気温が低かったことが考えられます。

また、ヒノキ花粉も過去3番目に少ない581個で、過去最高であった2019年の9416個から激減しました。

表1:行橋市の花粉飛散の変遷 ()内は九州内の順位

	スギ	ヒノキ
2006年	3317個 (9)	3561個 (4)
2007年	3324個 (6)	747個 (7)
2008年	4559個 (7)	2376個 (4)
2009年	3146個 (19)	1413個 (16)
2010年	2042個 (3)	344個 (8)
2011年	6271個 (5)	5072個 (3)
2012年	4096個 (7)	982個 (15)
2013年	7112個 (5)	2856個 (4)
2014年	3642個 (26)	3909個 (6)
2015年	2342個 (6)	405個 (4)
2016年	2606個 (4)	1102個 (4)
2017年	6027個 (4)	4874個 (3)
2018年	4422個 (2)	7946個 (3)
2019年	8296個 (4)	9416個 (2)
過去14年の平均値	4372個	3215個
2020年	2237個 (6)	579個 (5)

さらに飛散状況(図1)を見てみると、スギ花粉は前年より少し早く2月初めから飛散開始し、2月中旬にはピークを迎えたものの、大きなピークとはならず3月上旬には飛散終了となりました。ヒノキ花粉も3月中旬に飛散開始してその後3月下旬にピークになったものの、そのまま飛散が終息しました。

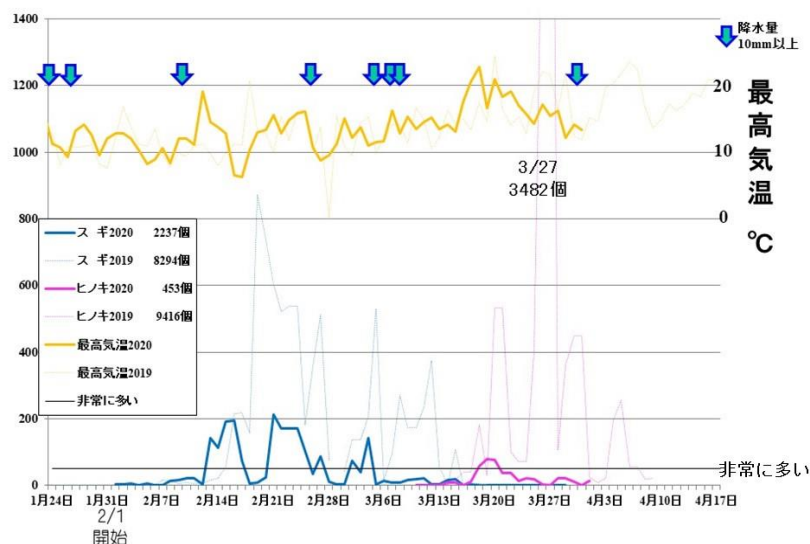


図1: 行橋市の気温変化と花粉飛散状況

飛散状況をさらに細かく見てみると(表2)、スギの飛散開始日(二日続けて1個以上の飛散を認めた初日)は2/1で、2/8には本格飛散期(10個以上の飛散)、さらにその後2/13には爆発的飛散期(100個以上の飛散)となりピークを迎えました。最大飛散日は2/21(212個)でした。爆発的飛散日数は前年の22日から10日へと大幅に減少しました。

表2: 行橋市の花粉飛散状況の比較

	スギ		ヒノキ	
	2019	2020	2019	2020
初観測日	1月10日	1月6日	3月11日	3月10日
飛散開始日	2月4日	2月1日	3月11日	3月12日
本格飛散開始日	2月7日	2月8日	3月15日	3月17日
爆発的飛散開始日	2月16日	2月13日	3月18日	-
爆発的飛散日数	22日	10日	13日	0日
最大飛散日	2月19日	2月21日	3月27日	3月20日
最大飛散数	873個	212個	3482個	79個
総飛散数	8296個	2237個	9416個	581個

ヒノキ花粉の方は、3/12に飛散開始し、その後3/17に本格飛散期に入ったものの、爆発的飛散は見られないまま、終息しました。最大飛散は3/20の79個にとどまっています。患者さんにとっては、ちょうどコロナウィルスの感染拡大が身近になってきたころに、飛散が終息したため、くしゃみや鼻汁などによって、周囲の方からの目をあまり気にしなくてもすんだようです。

県内の飛散状況(図2)を見ると、行橋市のスギ花粉飛散は2237個で、九州全体でみると6番目でした。県内のほかの定点では宗像市(2)豊前市(4)飯塚市(5)直方市(10)となり、今年もベスト10の半分が福岡の定点となりました。花粉が少ない年でも福岡県はスギ花粉が多い地域となっています。一方、ヒノキ花粉は行橋市では579個(5)で、県内では飯塚市(1)福岡市(2)甘木市(3)豊前市(4)宗像市(6)と上位を占め、福岡県はヒノキ花粉も多い地域となりました。

国土地理院承認 平14総検 第149号

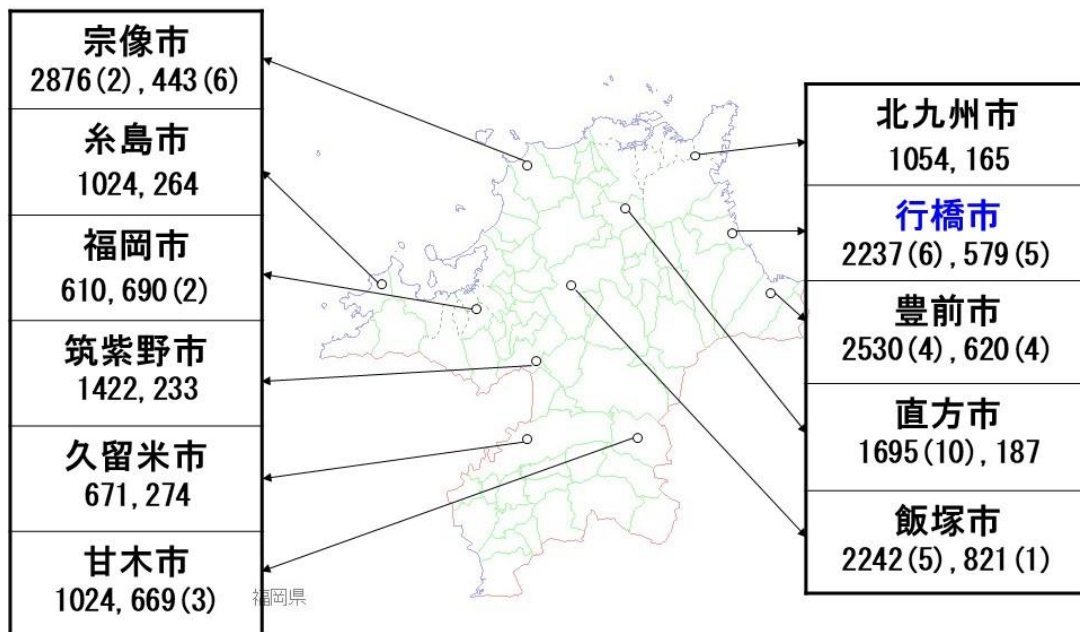


図2 : 2020年の花粉飛散数 (スギ, ヒノキ)

【今年(2021年)の花粉飛散予想】

スギ花粉飛散は前年7月が暑くて雨が少ないと飛散が多くなるといわれています。2020年7月(表3)は、最高気温は2019年の29.2℃をさらに下回り過去最低の28.0℃となりました。さらに降水量も702mmと過去最多となりましたので、2021年春のスギ花粉飛散も少なくなると予想されます。

飛散開始時期については、今後の気象状況で変わってきますが、今のところ寒い冬になりそうですので、例年よりやや遅れて2月下旬頃に飛散開始し、3月上旬にピーク期に入ると予想されます。

表3: 前年7月の気象とスギ飛散状況

	日最高気温	降水量	翌年スギ花粉数
2005年	30.4℃	288mm	3317個
2006年	29.7℃	554mm	3324個
2007年	29.1℃	343mm	4559個
2008年	32.4℃	48mm	3146個
2009年	29.7℃	627mm	2042個
2010年	30.2℃	569mm	6271個
2011年	30.4℃	155mm	4096個
2012年	30.4℃	591mm	7112個
2013年	32.9℃	181mm	3642個
2014年	29.9℃	506mm	2342個
2015年	28.6℃	220mm	2606個
2016年	31.0℃	238mm	6027個
2017年	32.2℃	364mm	4422個
2018年	31.8℃	537mm	8296個
2019年	29.2℃	381mm	2237個
2020年	28.0℃	702mm	????個

【コロナ禍での花粉症対策】

昨年までと大きく違うこととして、花粉症の有無に関係なく、外出する際にはマスク着用が必須の状況になったことは、花粉症対策としては大きなことだと思われます。ただし、目の粗いマスクでは花粉対策としては不十分であり、花粉症の方は、花粉用のしっかりとしたマスクをつけた方がよいでしょう。これによって、症状はかなり抑制されると考えられますが、人込みでくしゃみなどをすると、周囲の目が気になるという方が多いと思われます。花粉飛散開始時期からしっかりと抗アレルギー剤やステロイド点鼻薬などによる初期治療を継続することで、このような花粉症状を抑えることが可能ですので、症状がひどくなる前に専門医を受診するようにしましょう。

【花粉情報】

今シーズンも福岡県内 12 定点、九州 52 定点のデータをもとにした花粉情報が 2 月 1 日から 4 月 15 日まで公表されます。当院でも毎日の飛散状況や翌日の飛散予想、九州各県の飛散状況を「ゆくはし花粉情報」としてホームページとブログで情報発信しています。先生方のお役にたてれば幸いです。

福岡県医師会花粉情報のページ <http://www.fukuoka.med.or.jp/kafun/kafun.htm>

ゆくはし花粉情報 <https://sdbent.web.fc2.com/kafun.htm>

ブログ（院長のこぼれ話） <http://sdbent.blog55.fc2.com/>